

手製「増える漢字字典」作り(一年)



千葉県柏市立高柳小学校教諭
卯月 啓子

1 できあがった「増える漢字字典」

一年生のミヤ君は、さつきから自分が作った「増える漢字字典」を大事そうに持って、みんなに見せています。みんなも自分の漢字字典を見せ合っているみたいです。

平成六年三月一九日、千葉県東葛飾郡関宿町立中央小学校一年三組(男子19名女子15名)の子どもたちは、お手製の「増える漢字字典」を一人一冊作り上げたのです。一冊で八十ページ、八十の漢字を書きました。

この漢字字典作りは、六月から始まって三月までの約九か月間かかりました。そして、索引と後書き、奥付を加えて絵本として製本し、表紙をかいてようやくできあがりました。だから、そのうれしさは格別です。

3 「山」の漢字から

一年生にもこの手製の漢字字典を作る楽しさを味わわせたいと思いました。ですが、まだ本物の漢字辞典を引くことができませんから、B4判上質紙一枚を二字分として、「一字ごとに」「読み方」「でき方」「使われ方」「書き順」の各コーナーを印刷し、わたしが黒板に書いた「読み方」「書き順」の部分を丁寧に書き写させました。

いちばん最初に書いた漢字は「山」。教科書(教育出版「新版くぐく」上「平成三年文部省検定済」)「けんかした山」から、順に配当漢字を一字ずつ書きました。

シュン君は、用例に「けんかした山。たかい山。どちらの山もいうことをききません。りょうほうの山」と書き、新聞や広告などから「山」の付く漢字を見つけたびにはっていきました。そうすることで、何回もその漢字を学ぶことにつながっていきました。

上質紙一枚分、二文字書けたら、個人ファイルにはさませました。最初は二文字書くのに四十五分間はたづりかかりましたが、慣れるに従って、朝自習の時間十五分間くらいで作れるようになりました。枚数が増えるにつれて、漢字をたくさん学習していることに驚くとともに、使われている漢字を見つけるとすぐ字典に書き加えたりはったりして、自分の漢字字典を充実させていきました。

2 どの学年でも作る「増える漢字字典」

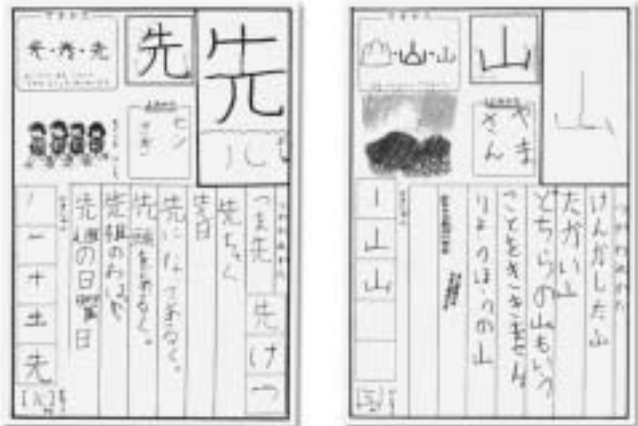
この一年生の漢字学習は、学年で購入した市販の漢字ノートに一字ずつ練習をしたり、ドリル学習をしたりして、テストで習熟程度を見ていました。こういった学習では喜んで学ぶという姿勢からは程遠いように思いました。

自分から進んで学んでいく漢字学習をさせたいと思い、この「増える漢字字典」作りをさせました。この「増える」という意味は二通りあり、一つは「一文字書けば、一ページずつ漢字字典の数が増える」という意味と、漢字の用例を増やしていけば中身が増える、つまり充実していくという意味があります。

漢字は生活の中で、どういう場や文脈で使われているか知ることが大事です。教科書や字典に書いてある文例を書き入れるだけではなく、新聞や広告、ちらし、パンフレット、漫画などから、その漢字が使われている部分を切り取ってはっていくことを奨励しました。

この漢字字典はノートを使うこともありますが、たいていは白紙に書いていきます。漢字辞典の大きさも収集する漢字数も自由です。テーマを決めている子もいれば、手当たり次第に書いている子もいます。この学習では、本物の漢字辞典を活用する力も向上します。ある三年生の男の子は二年間で千字以上書きました。

子どもが作った漢字字典の例



なお、今回の実践は、拙書「楽しい国語1 漢字と遊ぶ」漢字で学ぶ(東洋館出版、二〇〇三年、97頁99ページ)で紹介しております。一年から六年までの実践も掲載されています。あわせてお読みいただければ幸いです。